

# 岡山県感染症週報 2013 年 第 51 週 (12 月 16 日～ 12 月 22 日)

【お知らせ】次週、2013 年第 52 週(12 / 23～12 / 29)の感染症週報は、平成 26 年 1 月 9 日(木)にホームページに掲載いたします。

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症注意報』発令中です。

## ◆2013 年 第 51 週 (12 / 16～ 12 / 22) の感染症発生動向 (届出数)

### ■全数把握感染症の発生状況

第 49 週	2 類感染症	結核	1 名 (60 代 男)
	5 類感染症	ウイルス性肝炎	1 名 (20 代 男)
第 50 週	2 類感染症	結核	1 名 (30 代 女)
第 51 週	2 類感染症	結核	3 名 (20 代 男 1 名、60 代 男 1 名、70 代 女 1 名)
	3 類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	2 名 (O157 : 幼児 女 1 名、O115 : 90 代 男 1 名)
	4 類感染症	日本紅斑熱	1 名 (80 代 女)
	5 類感染症	ウイルス性肝炎	1 名 (30 代 女)

### ■定点把握感染症発生状況

- 感染性胃腸炎は、県全体で 934 名 (定点あたり 16.20 → 17.30 人) の報告があり、前週より増加しました。
- インフルエンザは、県全体で 78 名 (定点あたり 0.46 → 0.93 人) の報告があり、前週より増加しました。
- RS ウイルス感染症は、県全体で 57 名 (定点あたり 1.02 → 1.06 人) の報告があり、前週とほぼ同数でした。
- A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、県全体で 93 名 (定点あたり 0.94 → 1.72 人) の報告があり、前週より大きく増加しました。
- 咽頭結膜熱は、県全体で 31 名 (定点あたり 0.44 → 0.57 人) の報告があり、3 週連続で増加しています。

1. **腸管出血性大腸菌感染症**は、第 51 週に 2 名の発生報告がありました。岡山県のこれまでの報告累計は 87 名となり、第 39 週からは毎週発生が続いています。県では、7 月 10 日に「腸管出血性大腸菌感染症注意報」を発令し、注意喚起を図っています。手洗い等の徹底や、食品の冷蔵保存を行い、食肉は中心部まで火を通すなど、ひきつづき感染予防に努めましょう。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ「[腸管出血性大腸菌感染症注意報 発令中!](#)」をご覧ください。
2. **感染性胃腸炎**は、県全体で 934 名 (定点あたり 16.20 → 17.30 人) の報告があり、前週より増加しました。第 43 週以降連続で増加しています。倉敷市 (20.73 人) と美作地域 (23.33 人) で、定点あたり報告数が 20 人を上回り、新たに発生レベル 3 になりました。県内の発生状況など詳しくは「[感染性胃腸炎情報](#)」をご覧ください。
3. **インフルエンザ**は、県全体で 78 名 (定点あたり 0.46 → 0.93 人) の報告があり、前週より増加しました。県全体としてはインフルエンザ流行開始の目安となる「定点あたり 1.00 人」を超えていませんが、倉敷市 (1.38 人)、備中地域 (1.58 人)、美作地域 (1.90 人)、真庭地域 (3.00 人) では、患者が増加しています。ひきつづき手洗い・うがいなど、自分でできる感染予防に努めましょう。定期予防接種の対象の方は、本格的な流行が始まる前に、積極的に予防接種を行いましょ。定期接種の対象者以外の方についても、早めの予防接種をご検討ください。県内の発生状況など詳しくは、「[インフルエンザ情報](#)」をご覧ください。
4. **RS ウイルス感染症**は、県全体で 57 名 (定点あたり 1.02 → 1.06 人) の報告があり、前週とほぼ同数でした。地域別では、岡山市及び倉敷市 (1.64 人)、備中地域 (1.00 人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。第 50 週までの年齢別累計では、6 ヶ月未満 20%、6-12 ヶ月 26%、1 歳 33% と、1 歳以下の乳児が 79% を占めています。この感染症は、秋から冬にかけて多くの患者が報告されており、今後も患者数が増加する恐れがあります。ひきつづき手洗い、うがい、マスクの着用等、感染予防に努め、お子さんの体調が悪いときは、早めに医療機関を受診してください。  
全国の第 50 週の発生状況を見ると、定点あたり 1.39 人の報告がありました。10 月頃からは、増減を繰り返しながら緩やかに増加しており、過去 10 年で最も多いレベルで推移しています。地域別では、徳島県 (5.61 人)、香川県 (4.47 人)、長野県 (3.26 人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。
5. **A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎**は、県全体で 93 名 (定点あたり 0.94 → 1.72 人) の報告があり、前週より大きく増加しました。詳しくは、「[今週の注目感染症](#)」をご覧ください。
6. **咽頭結膜熱**は、県全体で 31 名 (定点あたり 0.44 → 0.57 人) の報告があり、3 週連続で増加しています。詳しくは、「[今週の注目感染症](#)」をご覧ください。

## 流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ		★	RSウイルス感染症		★★★
咽頭結膜熱		★★★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		★★★
感染性胃腸炎		★★★★★	水痘		★★
手足口病		★	伝染性紅斑		★
突発性発疹		★	百日咳		
ヘルパンギーナ			流行性耳下腺炎		★
急性出血性結膜炎		★	流行性角結膜炎		★★
細菌性髄膜炎			無菌性髄膜炎		
マイコプラズマ肺炎		★	クラミジア肺炎		
感染性胃腸炎(ロタウイルス)		—			

【記号の説明】 前週からの推移:

: 2 倍以上の減少     
 : 1.1~2 倍未満の減少     
 : 1.1 未満の増減  
 : 1.1~2 倍未満の増加     
 : 2 倍以上の増加

発生状況: 空白:発生なし   ★: 僅か   ★★: 少し   ★★★: やや多い   ★★★★: 多い   ★★★★★: 非常に多い  
 ※今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。感染性胃腸炎(ロタウイルス)については、平成 25 年第 42 週から報告対象となったため、前週からの推移のみ表示しています。

### 【お知らせ】

#### ○年末年始に海外へ旅行される方に向けた感染症情報が、厚生労働省のホームページに掲載されました。

海外には、通常日本国内に存在しない感染症があります。海外で感染症にかからないようにするには、出発前にあらかじめ渡航先の感染症に関する情報を入手しておくことが大切です。渡航先では感染に気をつけ、帰国時に体調不良があれば空港の検疫所に相談しましょう。また、帰国時に症状がなくても、その後体調が悪くなったときは、早めに医療機関を受診し、その際は渡航先も伝えましょう。

- \* [年末年始における海外での感染予防について](#) (厚生労働省ホームページ)
- \* [海外で健康に過ごすために](#) (厚生労働省検疫所ホームページ)

#### ○ワールドカップ観戦でブラジルへ渡航される方に向けた感染症情報が、厚生労働省検疫所のホームページに掲載されました。

2014 年 6 月からブラジルにおいてサッカーのワールドカップの開催が予定されています。渡航地域によっては、中南米地域などの風土病「黄熱」の予防接種が推奨されています。

渡航の際の注意事項及び早めの黄熱予防接種を呼びかけるリーフレットについて検疫所のホームページからご覧になれます。

- \* [ワールドカップ観戦でブラジルへ渡航される方へ](#) (厚生労働省検疫所ホームページ)
- \* [黄熱ワクチン接種啓発リーフレット](#) (厚生労働省検疫所ホームページ)

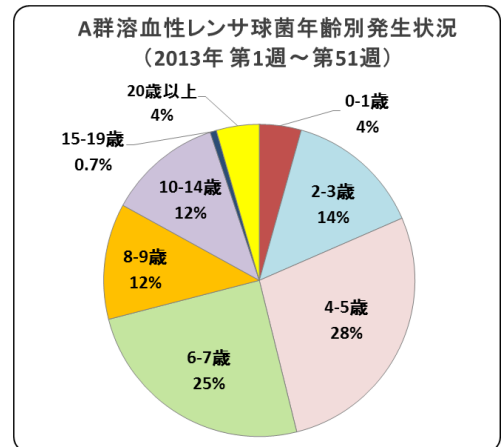
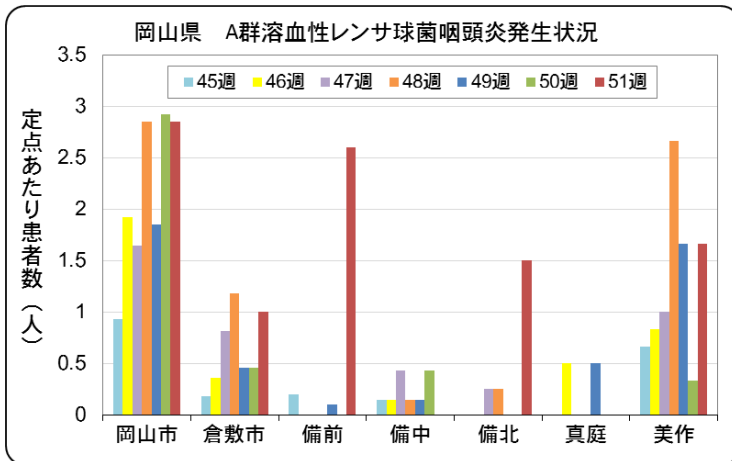
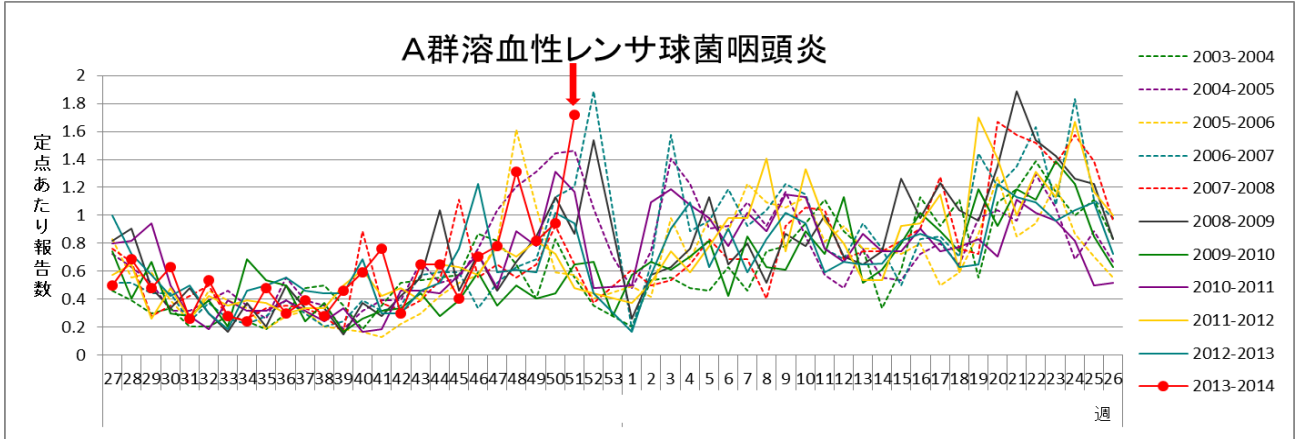
# 今週の注目感染症

## 1. A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、感染症発生動向調査において、5類の定点把握感染症であり、定点医療機関において、医師はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎患者を診断したときには、翌週の月曜日に最寄りの保健所に届出ることになっています。

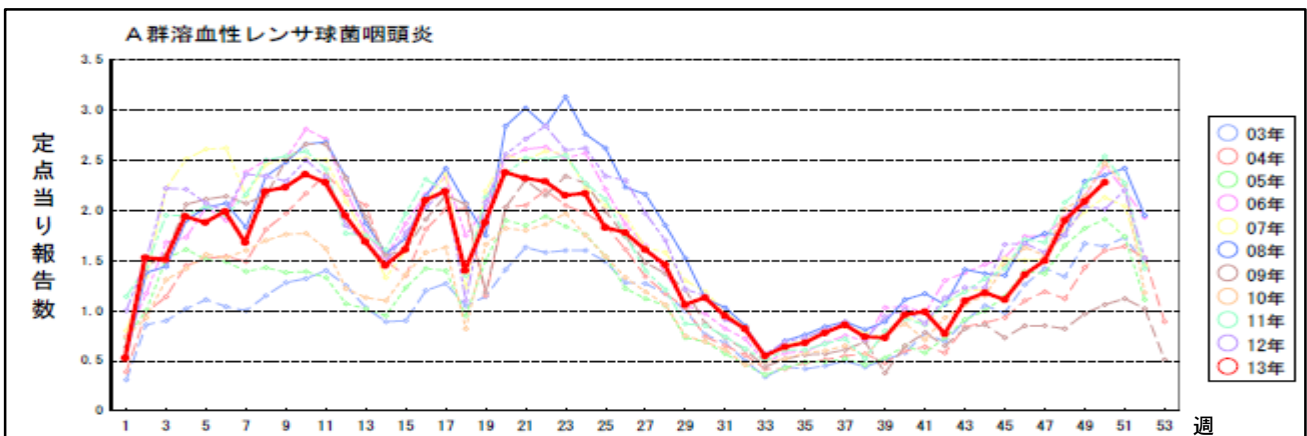
[A群溶血性レンサ球菌咽頭炎とは（国立感染症研究所 感染症の話）](#)

### 【岡山県の発生状況】



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、第51週には県全体で93名（定点あたり0.94 → 1.72人）の報告があり、前週より大きく増加しました。地域別では、岡山市（2.86人）、備前地域（2.60人）、美作地域（1.67人）の順で定点あたり報告数が多くなっており、備前地域（0 → 2.60人）、美作地域（0.33 → 1.67人）及び備北地域（0 → 1.50人）では、前週より大きく増加しました。年齢別では、4-5歳28%、6-7歳25%、2-3歳14%の順で多く報告されています。

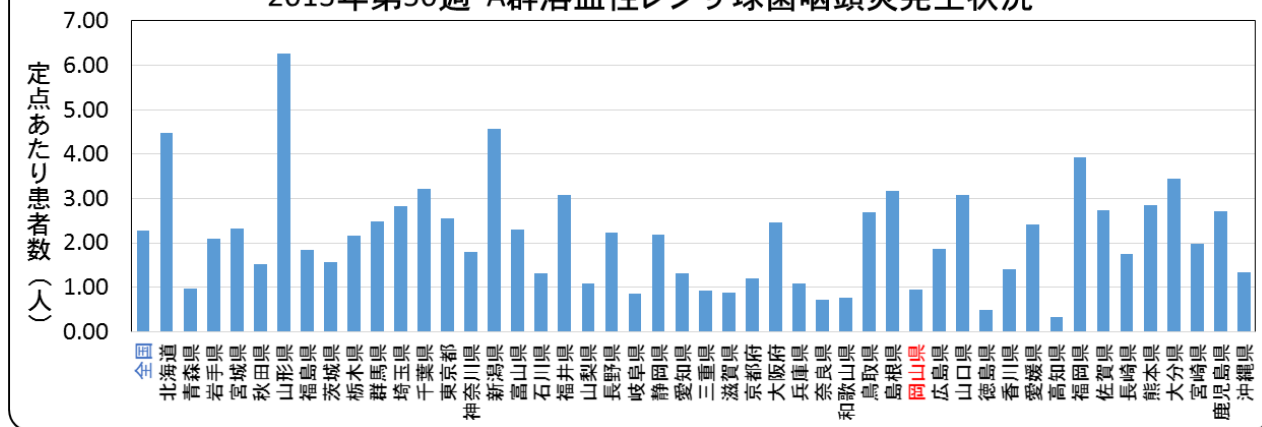
### 【全国の発生状況】



全国の第50週までの発生状況を見ると、第33週頃から増加傾向となっています。過去10年の発生動向グラフでは、冬～初夏に報告数の増加が見られますので、今後の発生状況に注意してください。

[（国立感染症研究所 IDWR 速報データ 2013年第50週）](#)

2013年第50週 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎発生状況



都道府県別の発生状況を見ると、山形県（6.27人）、新潟県（4.56人）、北海道（4.47人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。近隣の県での定点あたり報告数が、岡山県の2～3倍程度多くなっていますので、今後の県内の発生状況に注意するとともに、手洗い、うがいを行う、患者との接触を避けるなど、感染予防に努めましょう。

**【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎とは】**

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、A群レンサ球菌による上気道感染症です。感染経路はヒトからヒトへの飛沫感染や接触感染が主ですが、食品を介する経口感染もあるといわれています。通常は患者との接触を介して伝搬するため、ヒトとヒトとの接触の機会が増加するときに発生しやすく、家庭での兄弟間や学校、保育施設などの小児の集団生活施設内での感染も多いとされています。季節的には、冬季及び春から初夏にかけて2つの報告数のピークが確認され、患者の年齢は学童期の小児が最も多く報告されています。

**【症状】**

潜伏期間は2～5日で、突然の発熱、のどの痛み、全身倦怠感によって発症し、しばしば嘔吐を伴います。通常発熱は3～5日以内に下がり、主症状は1週間以内に消失する予後良好な疾患ですが、菌が産生する毒素に免疫がない場合は猩紅熱に発展する場合があります。合併症として、肺炎、髄膜炎、敗血症などの化膿性疾患、あるいはリウマチ熱、急性糸球体腎炎などの非化膿性疾患を生じることもあります。

**【治療・予防】**

治療には、抗菌薬の投与が行われます。アレルギーの有無などにより、投与される抗菌薬の種類は変わりますが、いずれの薬剤も少なくとも10日間は確実に投与することが必要です。

予防としては、患者との濃厚接触を避けることが最も重要であり、うがい・手洗いの実施や、咳エチケットなどの一般的な予防法が効果的とされています。

([国立感染症研究所 IDWR 2012年第20週 <注目すべき感染症> A群溶血性レンサ球菌咽頭炎](#))

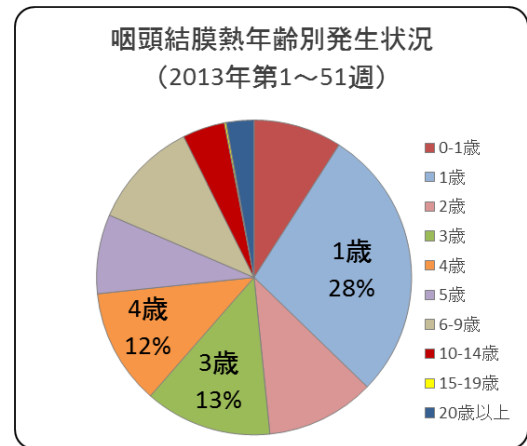
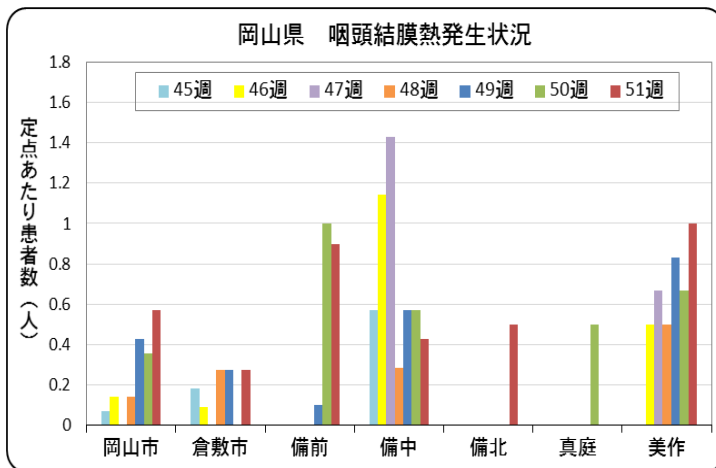
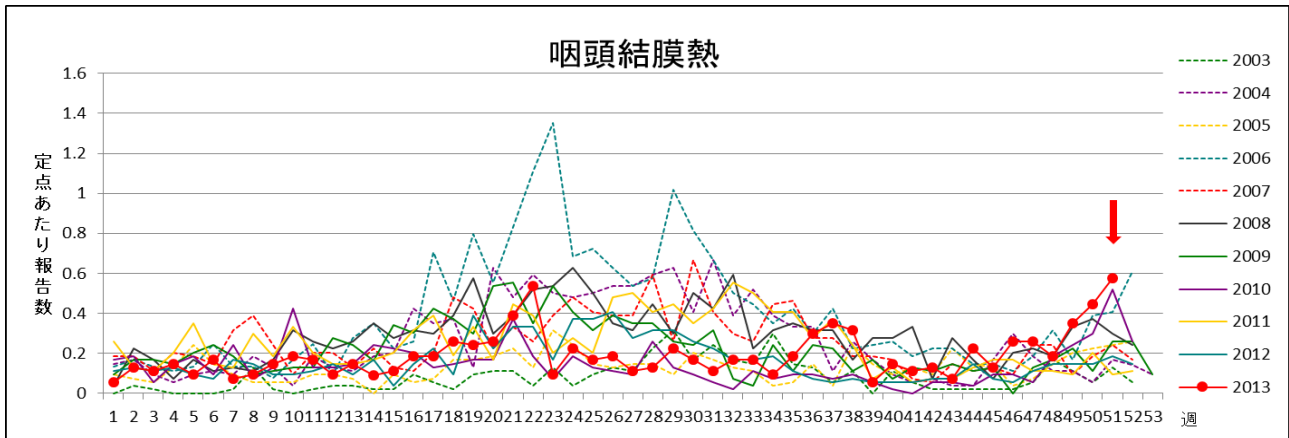
## 2. 咽頭結膜熱

咽頭結膜熱は、感染症発生動向調査において、5類の定点把握感染症であり、定点医療機関において、医師は咽頭結膜熱患者を診断したときには、翌週の月曜日に最寄りの保健所に届出ることになっています。

また、学校保健安全法等において、主要症状が消えた後2日を経過するまで出席停止とされています。

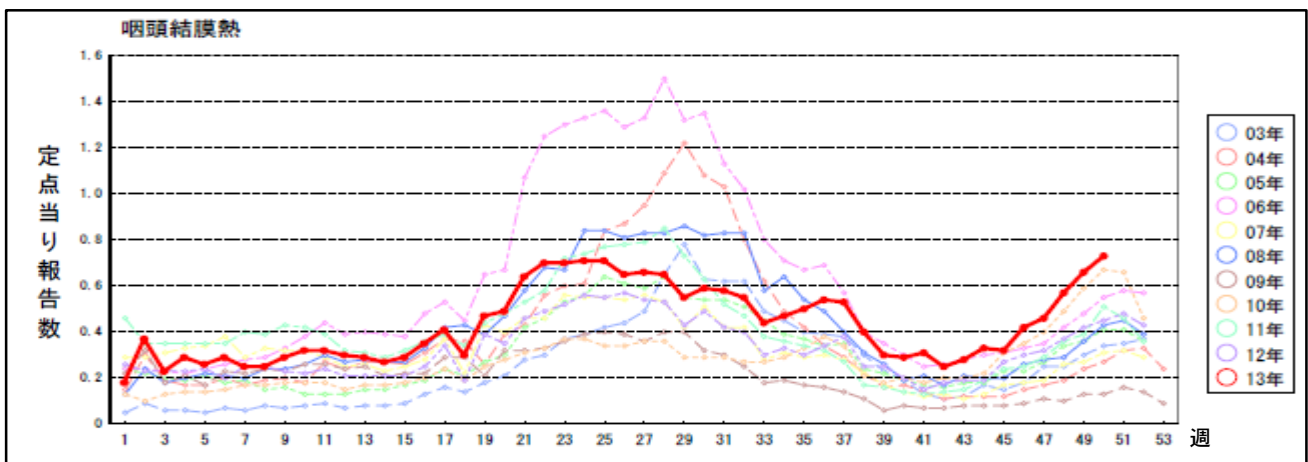
[咽頭結膜熱とは（国立感染症研究所 感染症の話）](#)

### 【岡山県の発生状況】



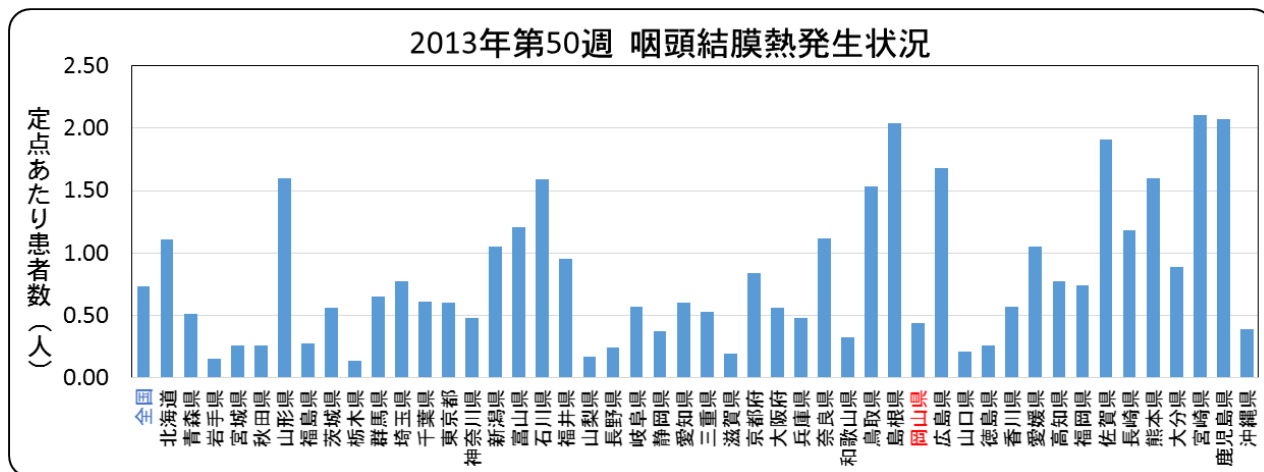
咽頭結膜熱は、第51週には県全体で31名（定点あたり0.44→0.57人）の報告があり、3週連続で増加しています。地域別では、美作地域（1.00人）、備前地域（0.90人）、岡山市（0.57人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。年齢別では、1歳28%、3歳13%、4歳12%の順で多く報告されており、0歳～5歳の乳幼児が81%を占めています。

### 【全国の発生状況】



全国の第50週までの発生状況を見ると、第45週頃から増加傾向となっています。過去10年の発生動向グラフでは、6～8月及び12月頃に報告数の増加が見られますので、今後の発生状況に注意してください。

[（国立感染症研究所 IDWR 速報データ 2013年第50週）](#)



都道府県別の発生状況を見ると、宮崎県（2.11人）、鹿児島県（2.07人）、島根県（2.04人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。近隣の県での定点あたり報告数が、岡山県に比べて多くなっていますので、今後の県内の発生状況に注意するとともに、しっかり手を洗い、患者との接触を避けるなど、感染予防に努めましょう。

#### 【咽頭結膜熱とは】

咽頭結膜熱は、主にアデノウイルスに感染することによってみられる発熱、咽頭炎、眼症状を主とする小児の急性ウイルス性感染症です。感染経路は主に接触感染、飛沫感染ですが、その感染力は強力で、タオル、ドアの把手、エレベーターのボタン、階段の手すり等の患者が触れたものを触ることによっても感染する場合があります。通常夏季を中心に流行する疾患で、プールでの感染も多く見られることから、プール熱とも呼ばれます。患者の年齢は5歳以下が約6割を占めています。

#### 【症状】

通常5～7日の潜伏期間を経て発熱で発症し、頭痛、食欲不振、全身倦怠感とともに、咽頭炎によるのどの痛み、結膜炎にともなう結膜充血、眼痛、目やになどの症状がみられ、症状は3～5日程度持続した後、回復します。

#### 【治療・予防】

特異的な治療法はなく、対症療法が中心となります。眼症状が強い場合には、眼科的治療が必要となることもあります。

予防法は、感染者との接触を避けること、流行時にうがいや手洗い、手指の消毒を実施することなどです。消毒法として、手指に対しては流水と石けんによる手洗い、器具に対しては煮沸や次亜塩素酸ナトリウムを用います。アデノウイルスに対して、消毒用エタノールの消毒効果は弱いとされています。

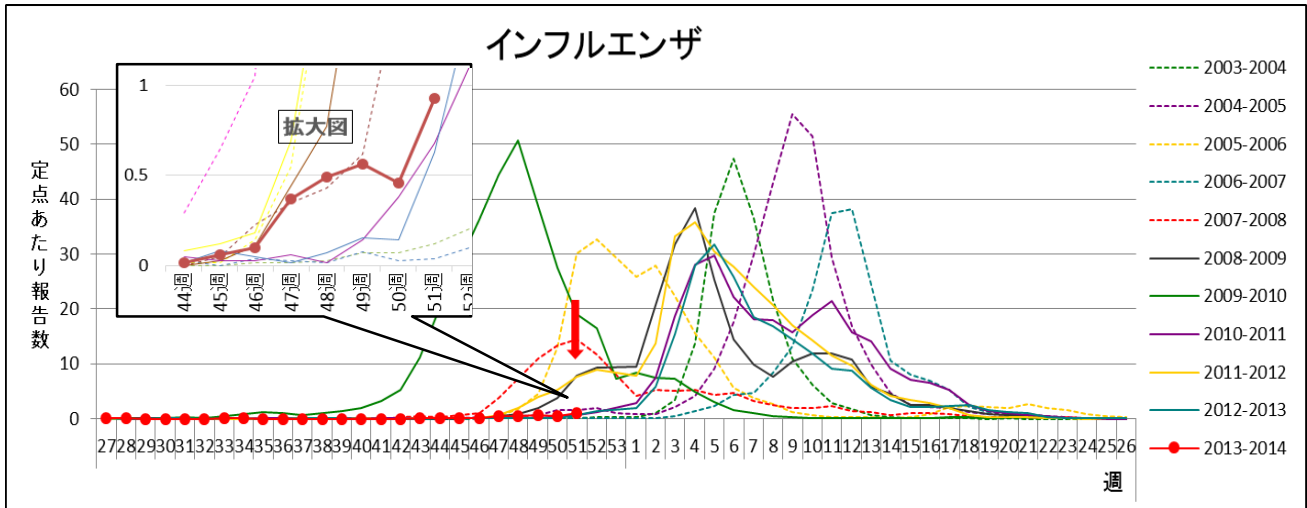
(国立感染症研究所 IDWR 2012年第25週<注目すべき感染症>咽頭結膜熱)

## インフルエンザ情報 2013 年 第 51 週 (12 月 16 日 ~ 12 月 22 日)

【お知らせ】次週、2013 年第 52 週(12 / 23~12 / 29)のインフルエンザ情報は、平成 26 年 1 月 9 日(木)にホームページに掲載いたします。

### 岡山県の流行状況

- インフルエンザは、県全体で 78 名(定点あたり 0.46 → 0.93 人)の発生がありました(84 定点医療機関報告)。
- インフルエンザとみられる学年閉鎖が、津山市の小学校 1 校でありました。
- インフルエンザによる入院患者の報告はありませんでした。



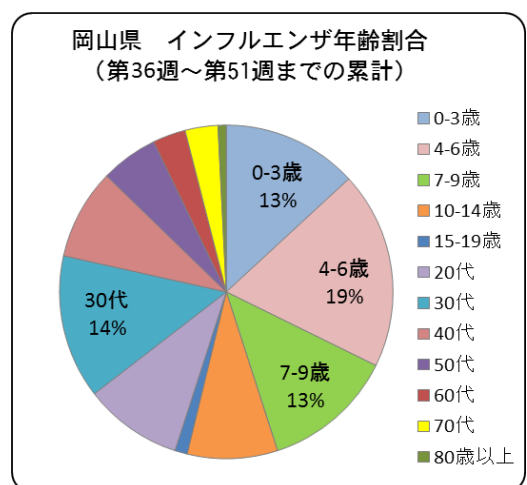
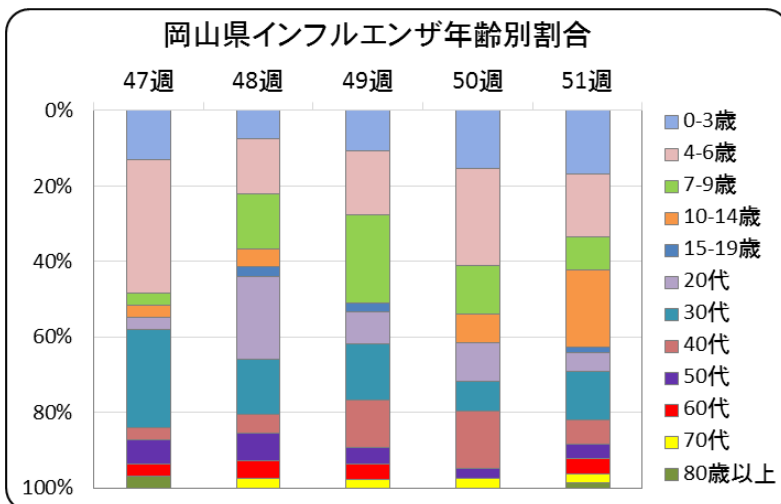
※ インフルエンザは、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、第 27 週 ~ 翌年第 26 週で、グラフを作成しています。

インフルエンザは、県全体で 78 名(定点あたり 0.46 → 0.93 人)の発生があり、前週より増加しました。県全体としての報告数はインフルエンザ流行開始の目安となる「定点あたり 1.0 人」を超えていないものの、倉敷市 (1.38 人)、備中地域 (1.58 人)、美作地域 (1.90 人)、真庭地域 (3.00 人)では、患者が増加しています。

12 月に入り、インフルエンザの流行シーズンを迎えています。手洗い・うがいを励行し、感染予防を心がけましょう。

### 1. 年齢別発生状況

2013 年第 36~51 週までの年齢別累計割合は、4-6 歳 19%、30 代 14%、0-3 歳及び 7-9 歳 13%の順で多くなっています。

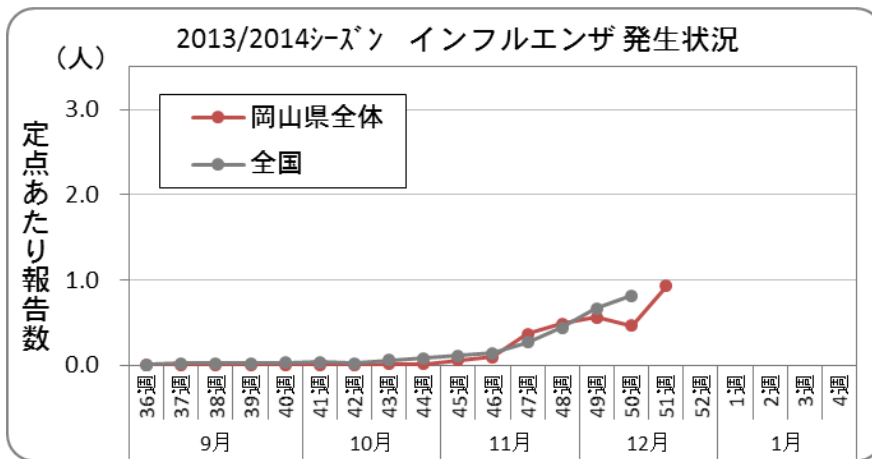


## 2. 地域別発生状況

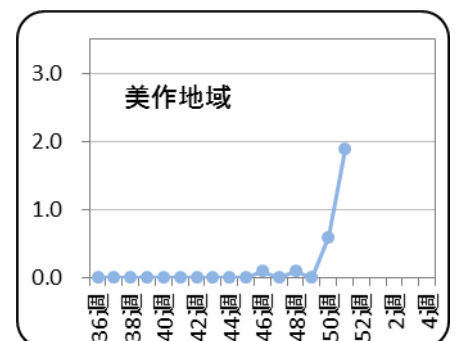
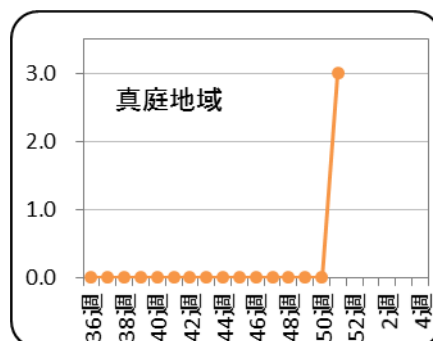
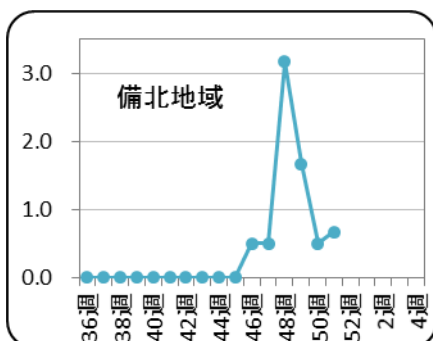
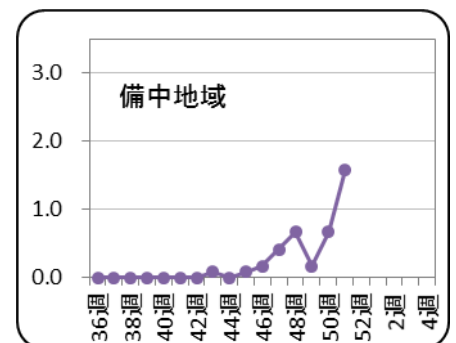
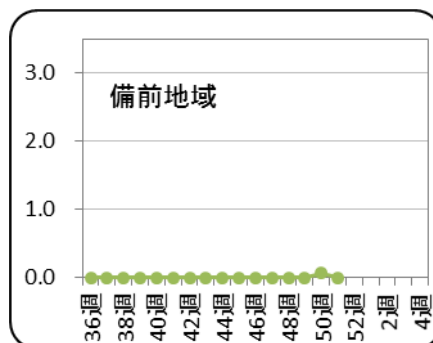
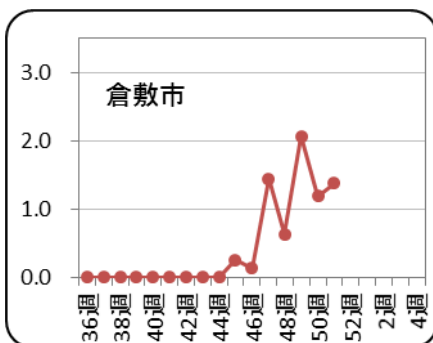
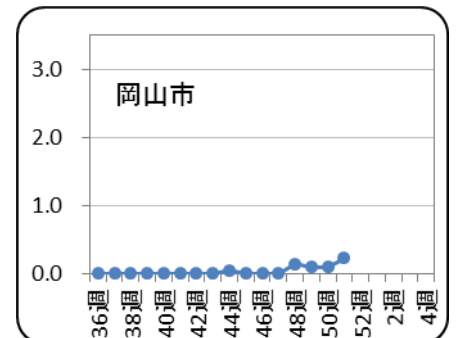
前週からの推移（単位：人）

地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
岡山県全体	患者数	78	↑	備 中	患者数	19	↑
	定点あたり	0.93			定点あたり	1.58	
岡山市	患者数	5	↑	備 北	患者数	4	↑
	定点あたり	0.23			定点あたり	0.67	
倉敷市	患者数	22	↑	真 庭	患者数	9	↑
	定点あたり	1.38			定点あたり	3.00	
備 前	患者数	0	↓	美 作	患者数	19	↑
	定点あたり	0			定点あたり	1.90	

【記号の説明】 前週からの推移： 2倍以上の減少 ↓ 1.1～2倍未満の減少 ↘ 1.1未満の増減 →  
1.1～2倍未満の増加 ↗ 2倍以上の増加 ↑



全国集計第50週(12/9～12/15)速報値によると、全国では定点あたり0.82人であり、第43週以降増加が続いています。地域別では、山口県(4.24人)、鹿児島県(3.01人)、高知県(2.44人)の順で定点あたり報告数が多くなっており、35都道府県で前週よりも増加しました。





### 3. インフルエンザウイルス検出状況

第51週、環境保健センターで判明したインフルエンザウイルスはありませんでした。今シーズンでこれまでに環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは、AH3型が7株です。

全国で検出されたインフルエンザウイルスは、AH3型が134株、AH1pdm09型が54株、B型が52株で、昨シーズンの同時期同様AH3型が最も多く検出されています。（平成25年12月26日現在）

[（インフルエンザウイルス分離・検出速報（国立感染症研究所））](#)

### 4. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

インフルエンザとみられる学年閉鎖が、津山市の小学校1校でありました。

#### 1) 有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳

地域名*	有症者数		うち欠席者数		施設数合計		休園・休校数		学年閉鎖施設数		学級閉鎖施設数		初発年月日
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	
<b>岡山県全体</b>	<b>9</b>	<b>88</b>	<b>8</b>	<b>54</b>	<b>1</b>	<b>6</b>	—	—	<b>1</b>	<b>3</b>	<b>0</b>	<b>3</b>	<b>H25. 11. 13</b>
岡山市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—
倉敷市	0	58	0	36	0	3	0	0	0	0	0	3	H25. 11. 18
備前地域	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—
備中地域	0	21	0	10	0	2	0	0	0	2	0	0	H25. 11. 13
備北地域	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—
真庭地域	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—
美作地域	9	9	8	8	1	1	0	0	1	1	0	0	H25. 12. 20

\* 地域名は、保健所管轄地域を表しています。

#### 2) 臨時休業施設数の内訳

第51週：1施設

累計：6施設

	保育所		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		その他	
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計
施設数	—	—	0	1	1	5	—	—	—	—	—	—

### 5. インフルエンザによる入院患者報告数（県内基幹定点5医療機関による報告）

インフルエンザによる入院患者の報告はありませんでした。

幼児や高齢者、慢性疾患・代謝疾患をもつ人、免疫機能が低下している人などでは重症化することがありますので注意が必要です。幼児ではまれに脳炎を起こすことがあります。水分をとった後すぐ吐いてしまう、元気がない、意識がはっきりせずうとうとしている、けいれんを起こす、このような症状がみられるときは、すぐに医療機関に相談しましょう。

#### <インフルエンザの予防接種はお早めに！>

インフルエンザの予防接種を行っても、**抗体ができるまでには2週間程度**かかるとされています。本格的な流行が始まる前に、早めのワクチン接種をご検討ください。

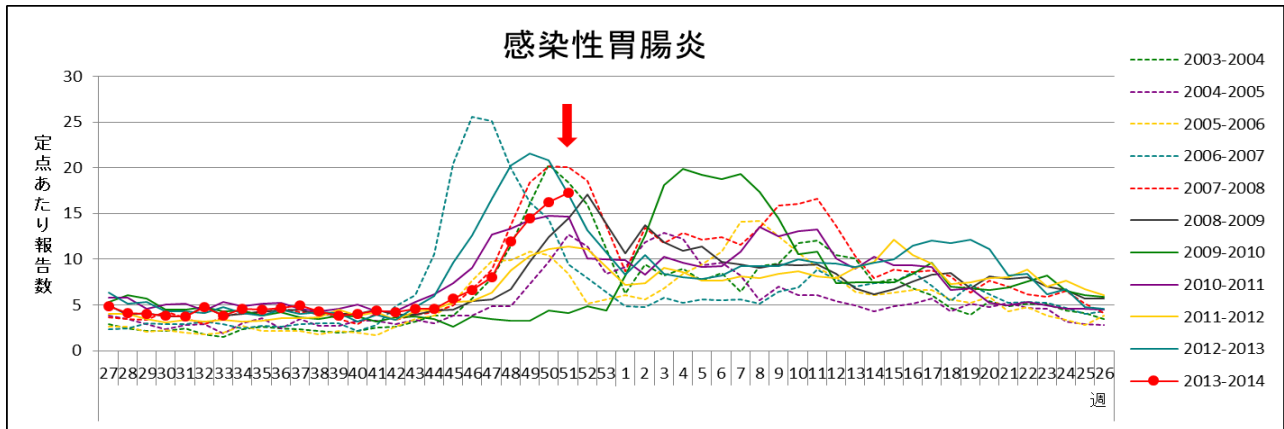
定期予防接種の対象者は積極的に予防接種を受けましょう。定期予防接種の対象者以外の方は、任意での予防接種を受けることをご検討ください。

ワクチンの在庫及び、予防接種の予約等については、各医療機関にお問い合わせください。

## 感染性胃腸炎情報 2013 年 第 51 週 (12 月 16 日 ~ 12 月 22 日)

【お知らせ】次週、2013 年 第 52 週 (12 / 23 ~ 12 / 29) の感染性胃腸炎情報は、平成 26 年 1 月 9 日 (木) にホームページに掲載いたします。

- 感染性胃腸炎は、県全体で 934 名 (定点あたり 16.20 → 17.30 人) の発生がありました (54 定点医療機関報告)。
- 岡山市の小学校 1 校で、感染性胃腸炎による学級閉鎖がありました。

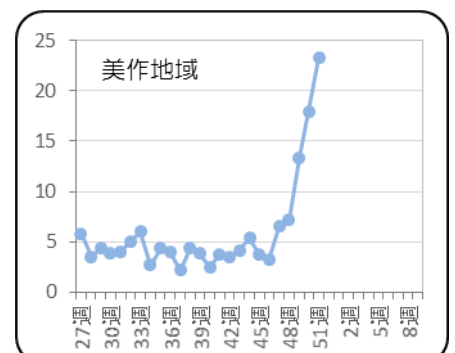
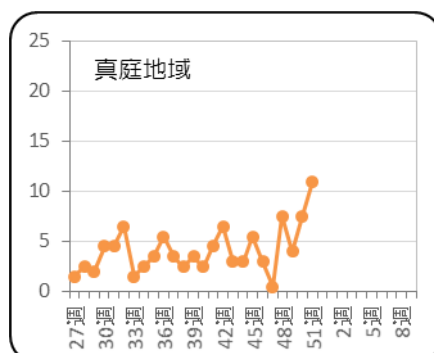
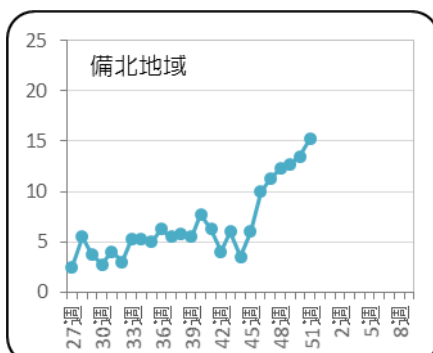
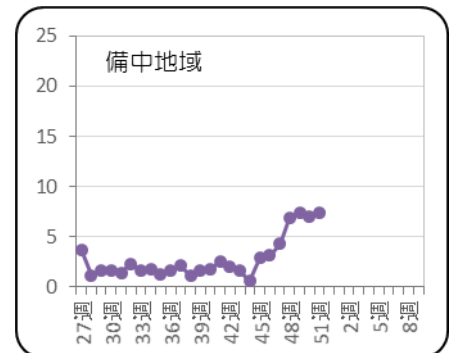
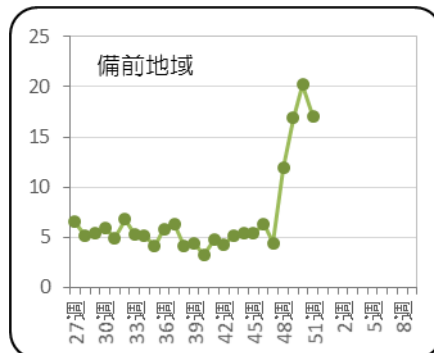
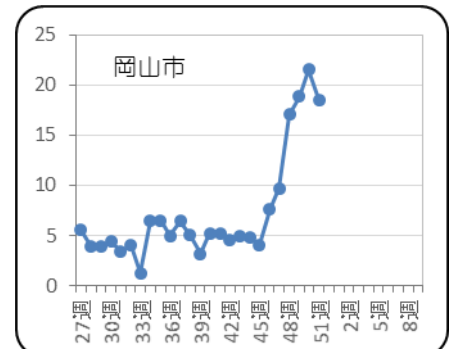
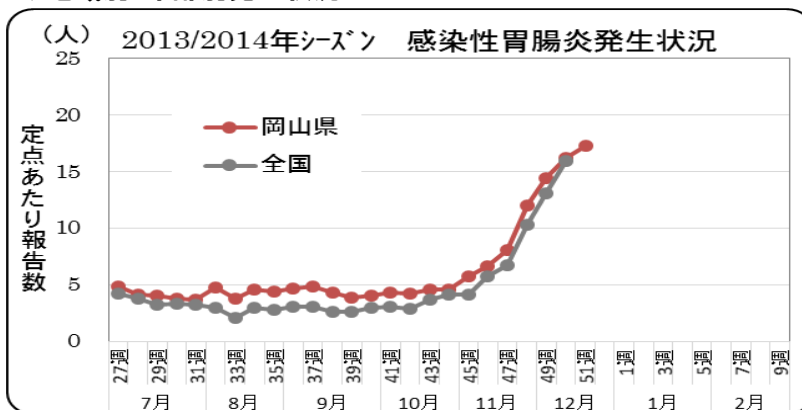


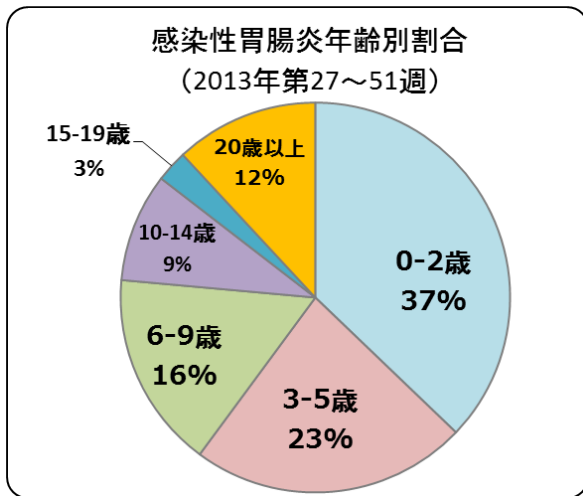
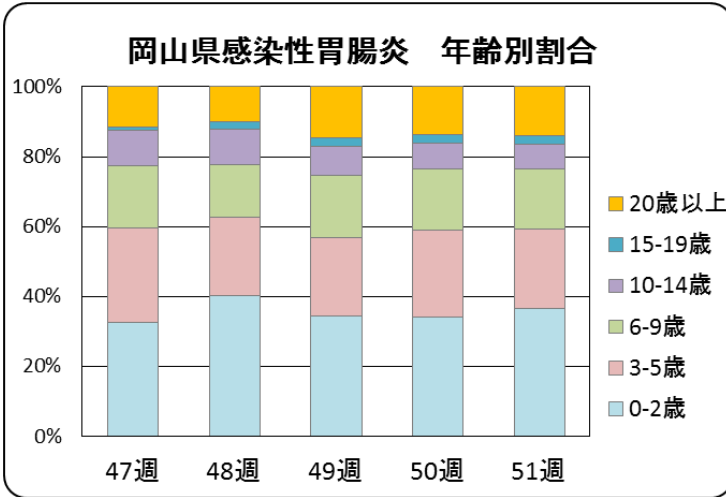
※感染性胃腸炎は秋から翌年の春にかけて流行するため、27 週～翌年 26 週でグラフを作成しています。

感染性胃腸炎は、県全体で 934 名 (定点あたり 16.20 → 17.30 人) の発生があり、前週より増加しました。第 43 週以降報告数の増加が続いており、11 月下旬 (第 47 週頃) からは急激に増加しています。冬の感染性胃腸炎の原因はノロウイルス等のウイルスによるものが多く、幅広い年齢層での発生がみられます。学校や福祉施設、病院などでは、手洗いの徹底や下痢便・嘔吐物の適切な処理など、感染予防と拡大防止に努めてください。

[○ノロウイルスに関する Q&A について \(厚生労働省\)](#)

### ◆地域別・年齢別発生状況





地域別では、美作地域 (23.33 人)、倉敷市 (20.73 人)、岡山市 (18.57 人)の順で定点あたり報告数が多くなっており、美作地域では3週連続で大きく増加しました。倉敷市及び美作地域で新たに定点あたり患者数が20人を上回り、発生レベル3の地域は岡山市、備前地域、倉敷市、美作地域となりました。

年齢別累計では、5歳以下の乳幼児が全体の60%を占めています。

## ◎感染性胃腸炎が増加しています。

石けんと流水でしっかりと手を洗うなど、感染予防と拡大防止に努めましょう。患者の嘔吐物や下痢便を処理する際には、自分が感染しないように、使い捨ての上着やマスク、手袋を着用しましょう。また、塩素系漂白剤などを使った消毒も併せて行いましょう。

通常重症化することはありませんが、小さなお子さんや高齢者の方は、嘔吐や下痢による脱水症状を起こすこともありますので、体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診してください。

保健所別報告患者数 2013年 51週 (2013/12/16～2013/12/22)

2013年12月25日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	78	0.93	5	0.23	22	1.38	-	-	19	1.58	4	0.67	9	3.00	19	1.90
RSウイルス感染症	57	1.06	23	1.64	18	1.64	3	0.30	7	1.00	-	-	1	0.50	5	0.83
咽頭結膜熱	31	0.57	8	0.57	3	0.27	9	0.90	3	0.43	2	0.50	-	-	6	1.00
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	93	1.72	40	2.86	11	1.00	26	2.60	-	-	6	1.50	-	-	10	1.67
感染性胃腸炎	934	17.30	260	18.57	228	20.73	171	17.10	52	7.43	61	15.25	22	11.00	140	23.33
水痘	85	1.57	34	2.43	18	1.64	16	1.60	6	0.86	2	0.50	5	2.50	4	0.67
手足口病	4	0.07	2	0.14	2	0.18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	1	0.02	-	-	-	-	1	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	14	0.26	4	0.29	8	0.73	1	0.10	-	-	-	-	-	-	1	0.17
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	3	0.06	-	-	1	0.09	1	0.10	1	0.14	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	1	0.08	1	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	15	1.25	3	0.60	3	0.75	8	8.00	1	1.00	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	1	0.20	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2013年 51週 (2013/12/16～2013/12/22)

2013年12月25日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	78	0.93	5	0.23	22	1.38	-	-	19	1.58	4	0.67	9	3.00	19	1.90
咽頭結膜熱	31	0.57	8	0.57	3	0.27	9	0.90	3	0.43	2	0.50	-	-	6	1.00
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	93	1.72	40	2.86	11	1.00	26	2.60	-	-	6	1.50	-	-	10	1.67
感染性胃腸炎	934	17.30	260	18.57	228	20.73	171	17.10	52	7.43	61	15.25	22	11.00	140	23.33
水痘	85	1.57	34	2.43	18	1.64	16	1.60	6	0.86	2	0.50	5	2.50	4	0.67
手足口病	4	0.07	2	0.14	2	0.18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	1	0.02	-	-	-	-	1	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	3	0.06	-	-	1	0.09	1	0.10	1	0.14	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	1	0.08	1	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	15	1.25	3	0.60	3	0.75	8	8.00	1	1.00	-	-	-	-	-	-

濃黄セルに赤字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3を示しています。  
 今週、岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2に該当するものではありませんでした。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 ( 2013年 第51週 2013/12/16~2013/12/22 )

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80~
インフルエンザ	78	-	-	3	3	7	3	3	7	5	1	1	16	1	4	10	5	3	3	2	1

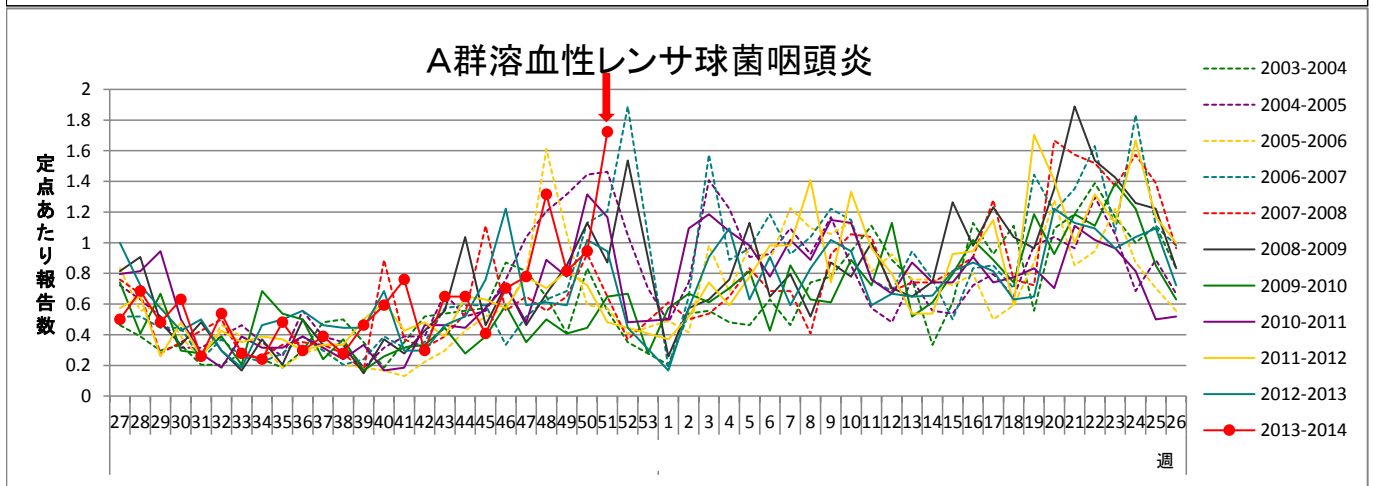
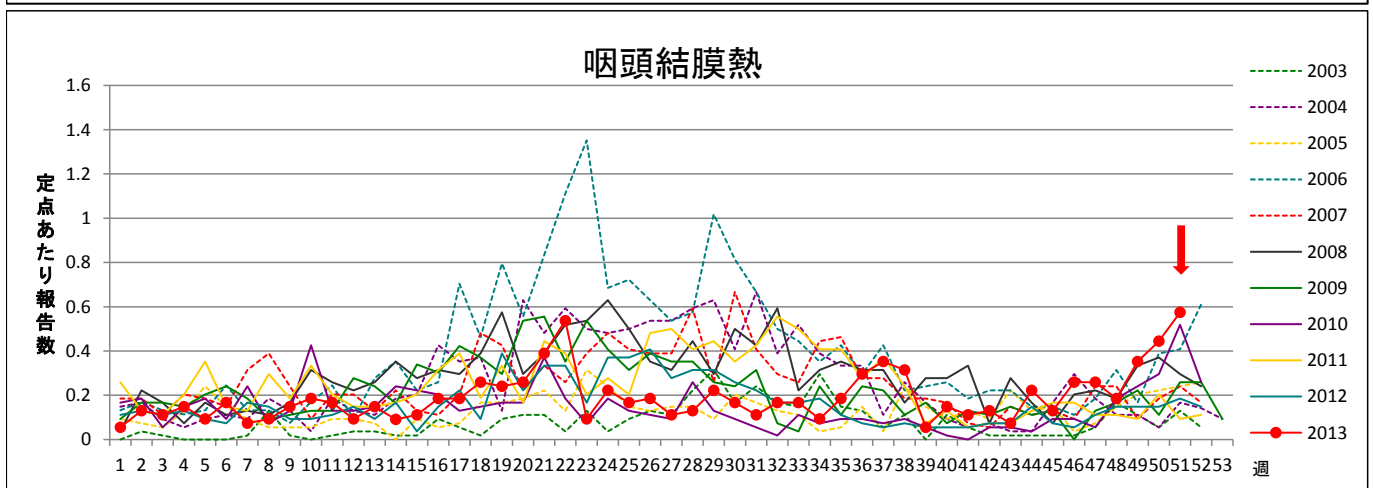
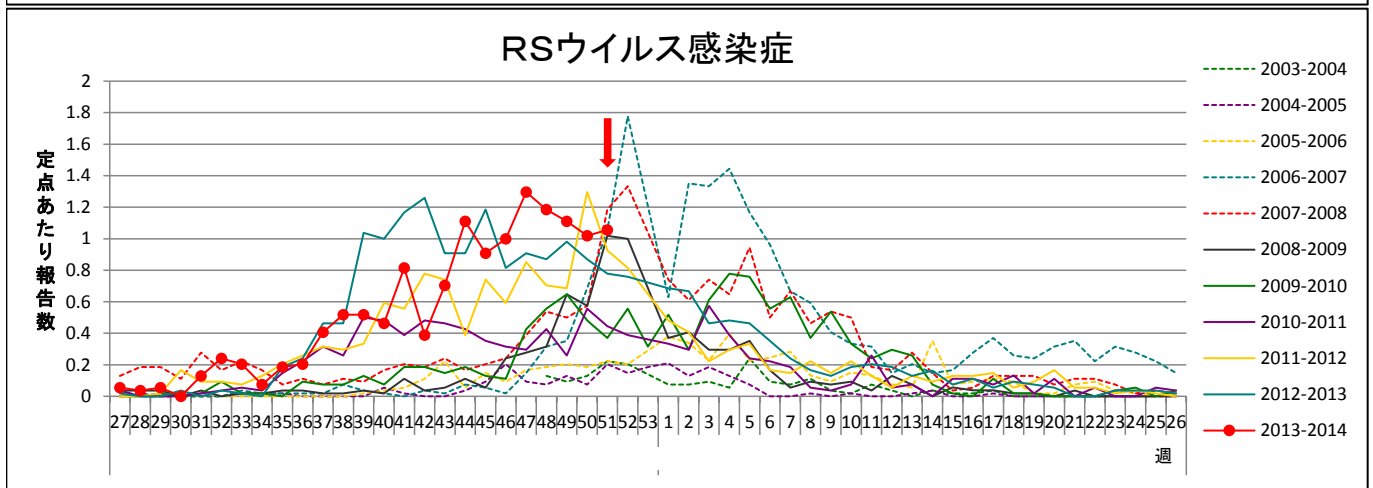
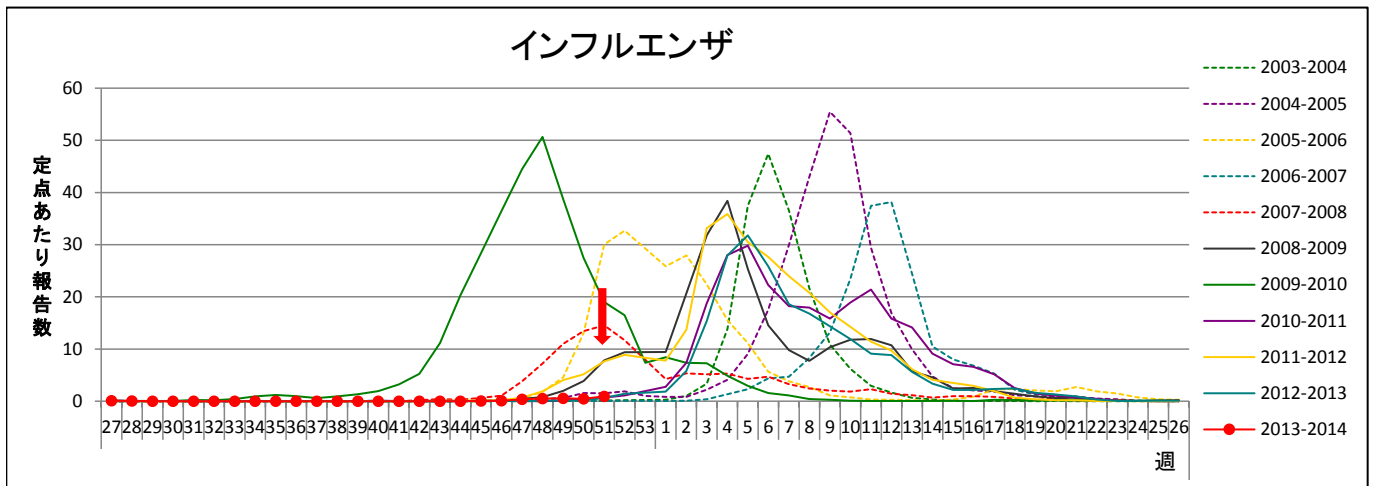
疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20~
RSウイルス感染症	57	10	18	18	4	3	2	-	2	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	31	-	1	5	2	7	6	1	1	5	-	-	3	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	93	-	1	4	4	7	11	6	15	12	9	3	11	4	6
感染性胃腸炎	934	9	55	179	97	75	84	56	57	42	26	35	64	23	132
水痘	85	3	5	16	15	11	16	9	6	3	1	-	-	-	-
手足口病	4	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
突発性発疹	14	1	7	5	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	3	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70~
急性出血性結膜炎	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
流行性角結膜炎	15	-	-	-	-	-	1	1	1	1	-	1	1	-	5	2	2	-	-	-

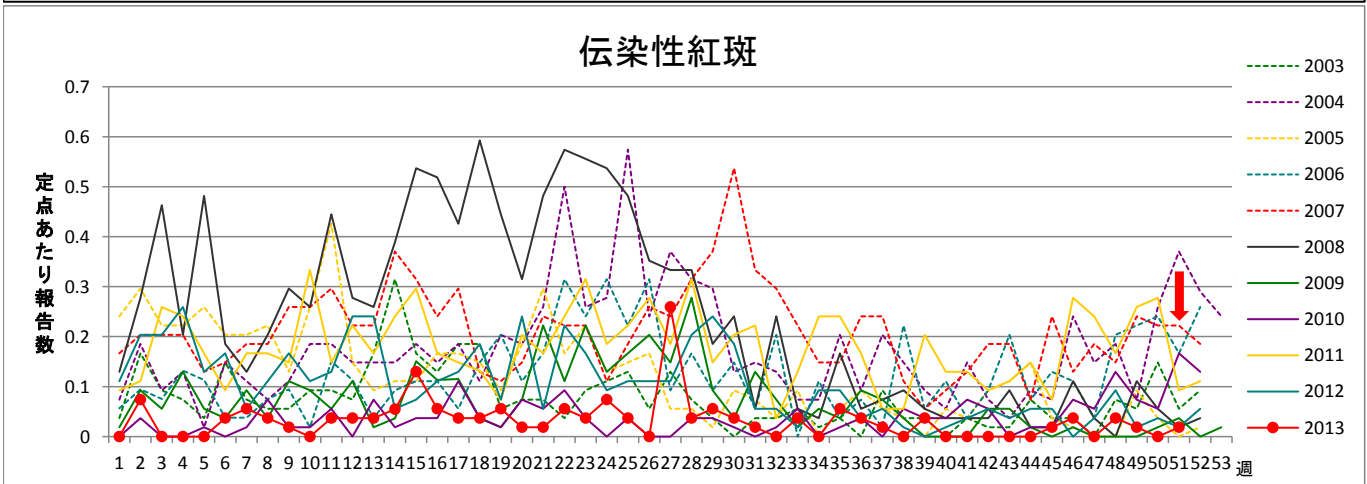
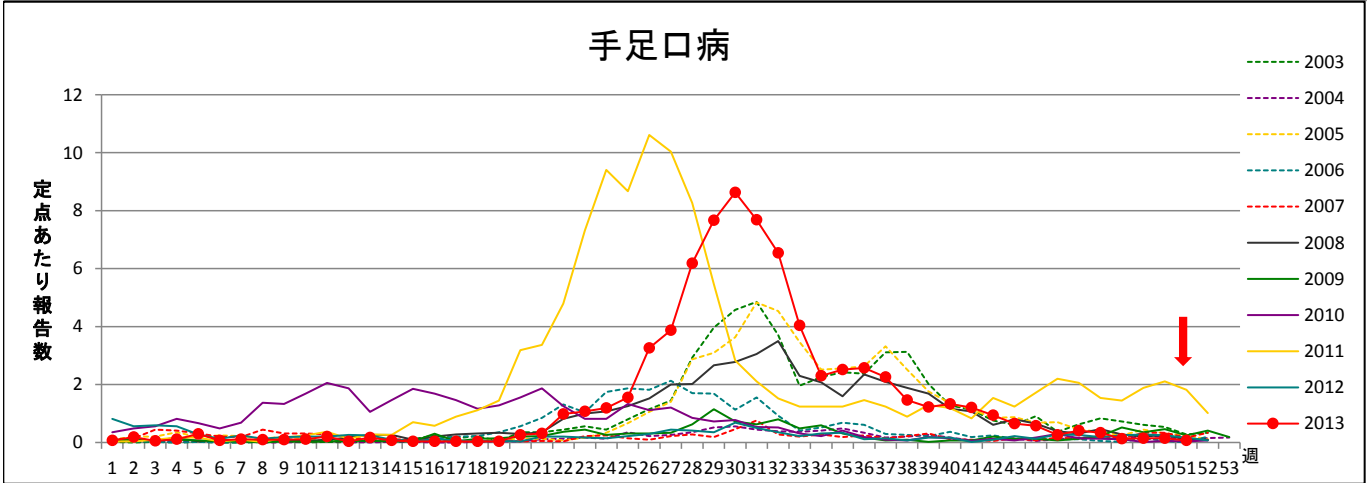
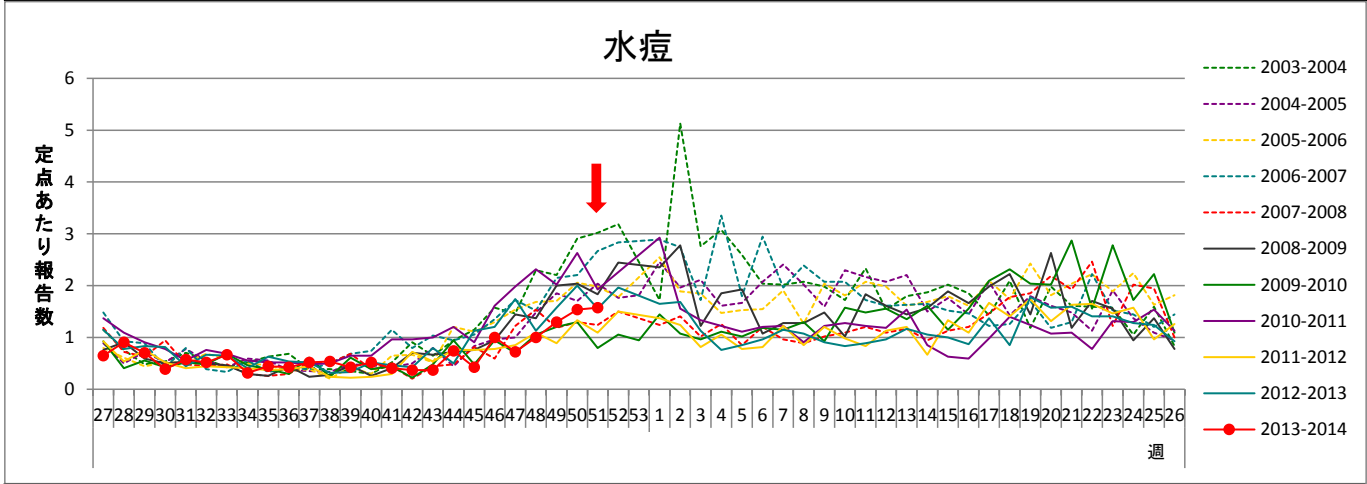
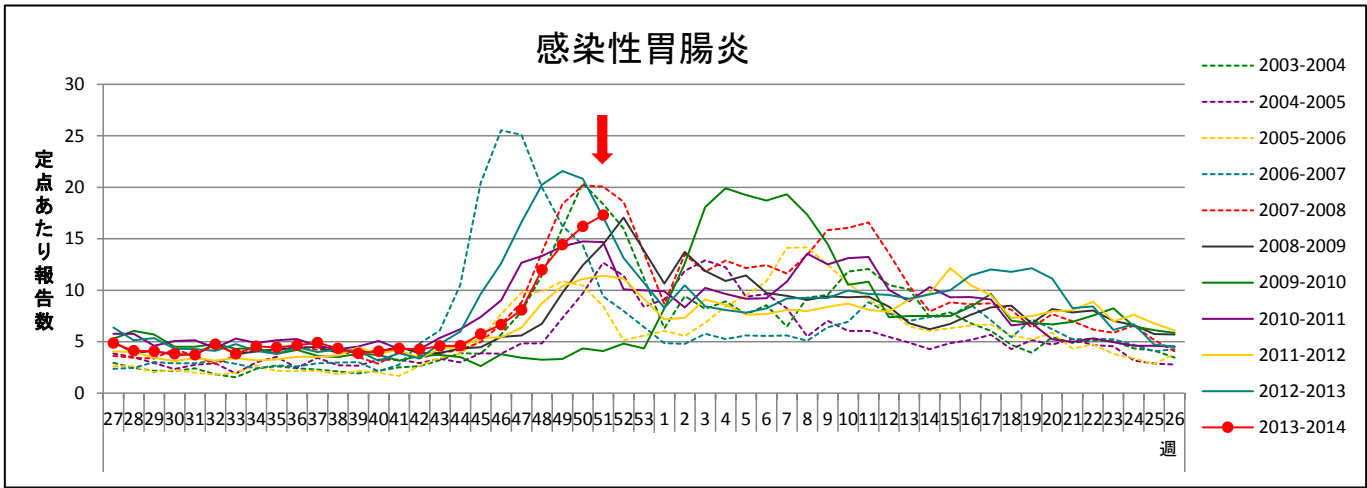
疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70~
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

( - : 0 )

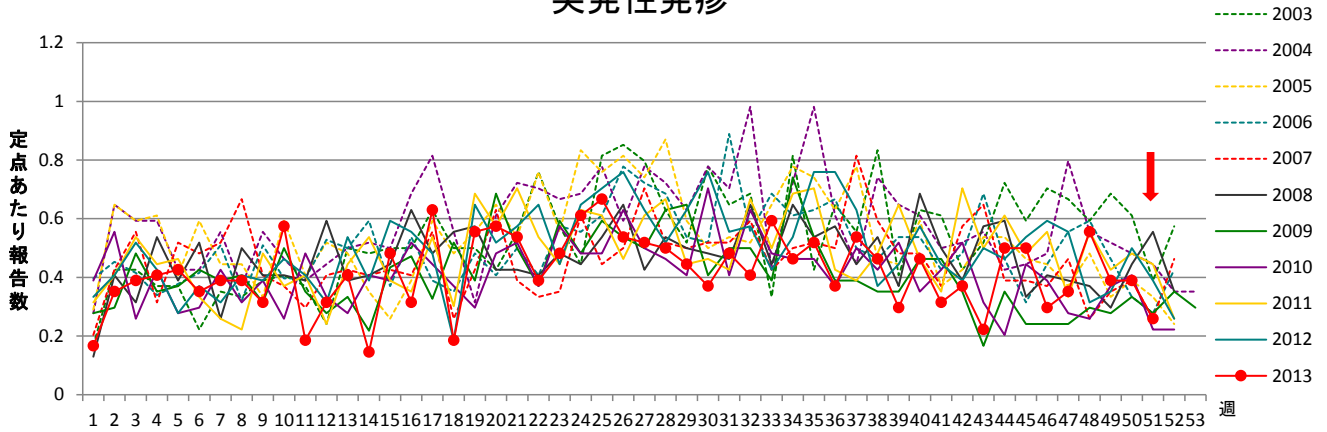




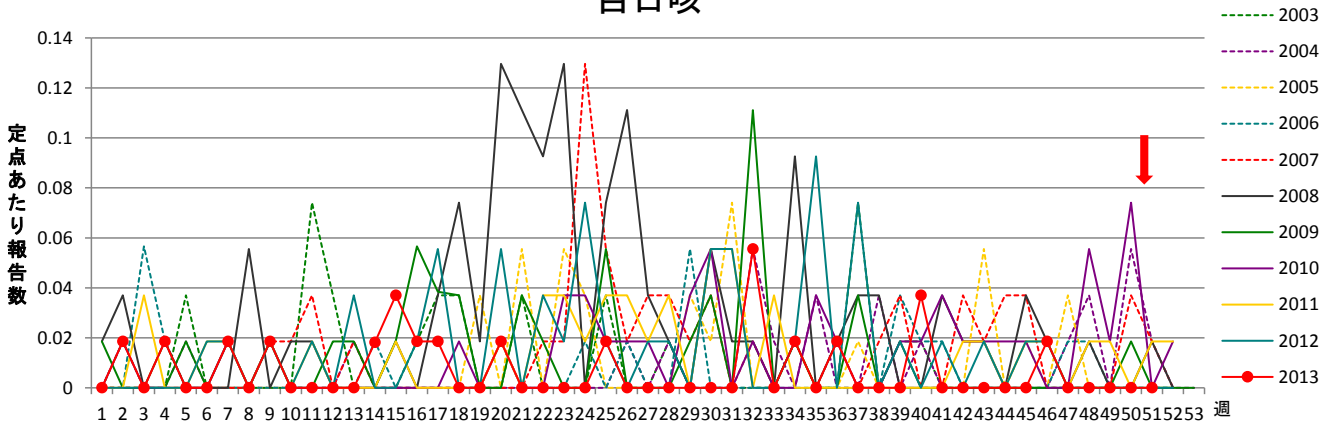




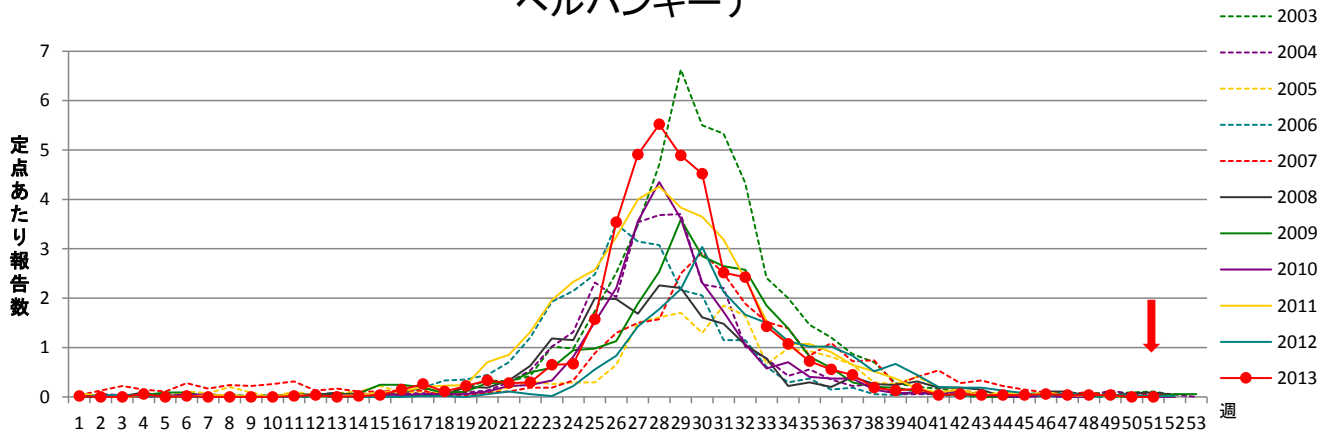
### 突発性発疹



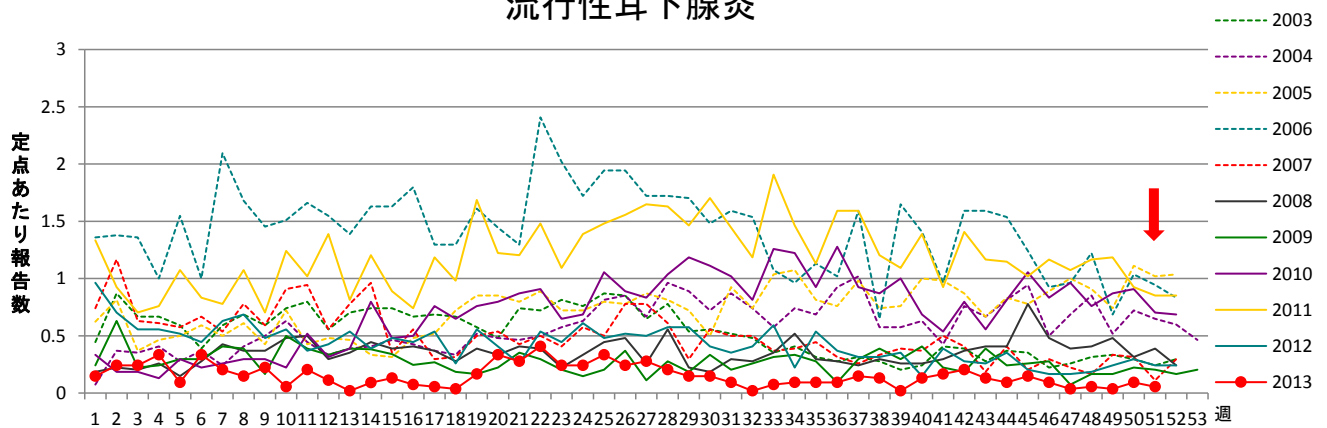
### 百日咳



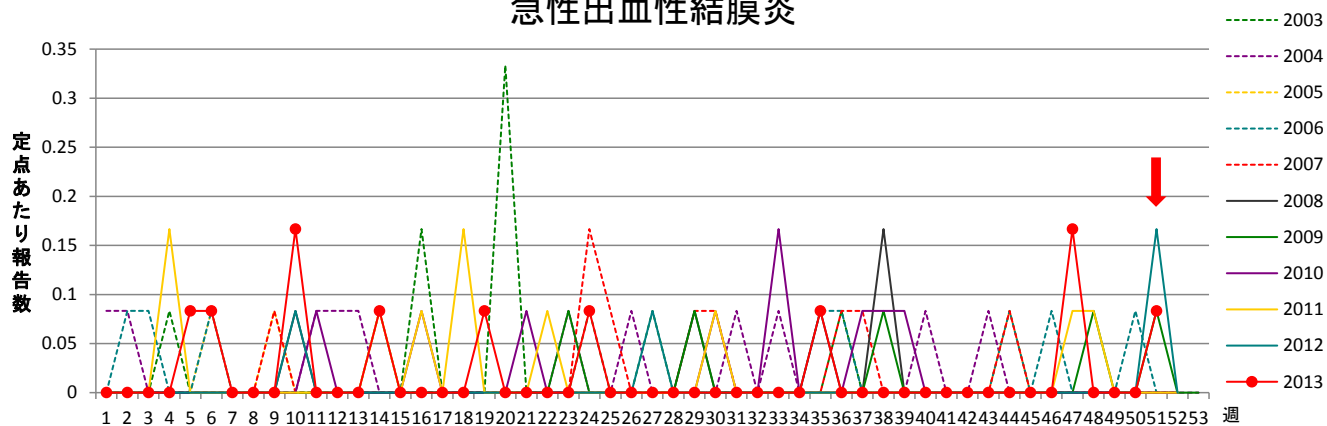
### ヘルパンギーナ



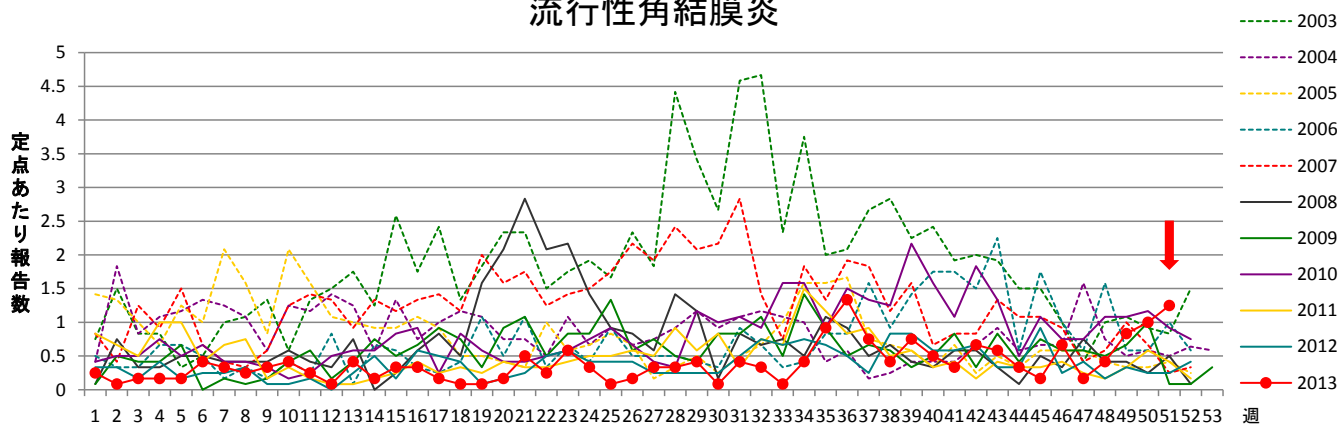
### 流行性耳下腺炎



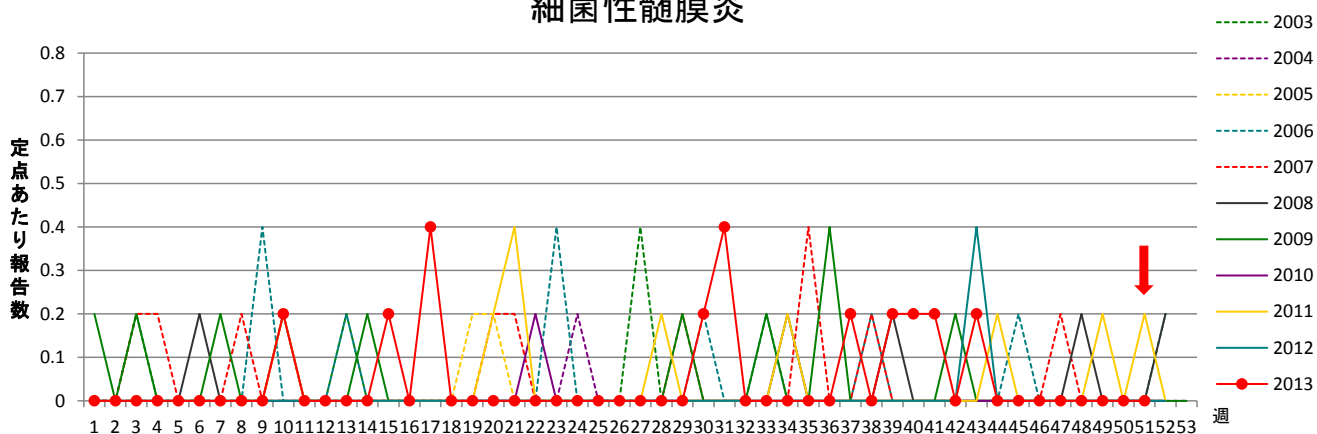
### 急性出血性結膜炎



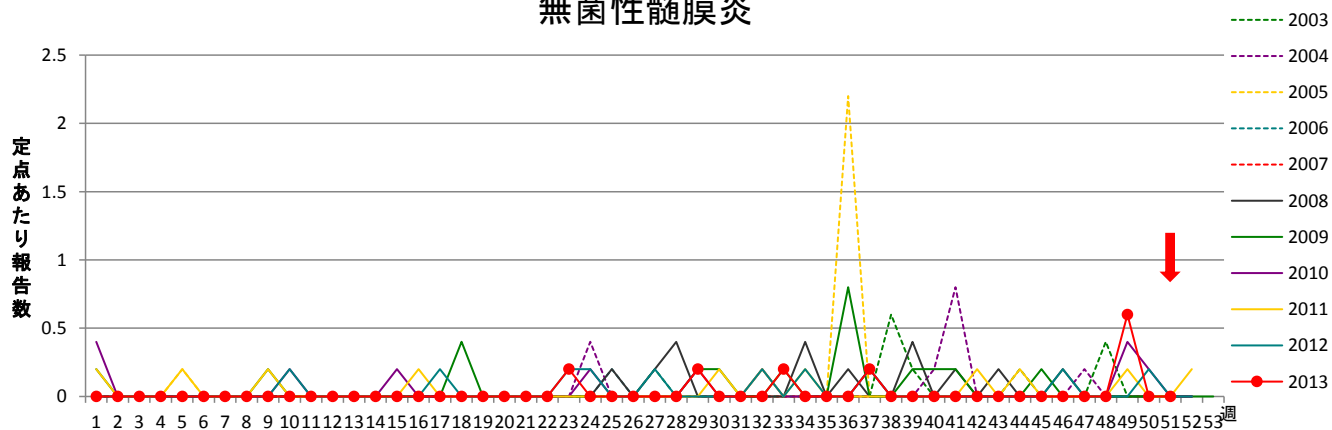
### 流行性角結膜炎



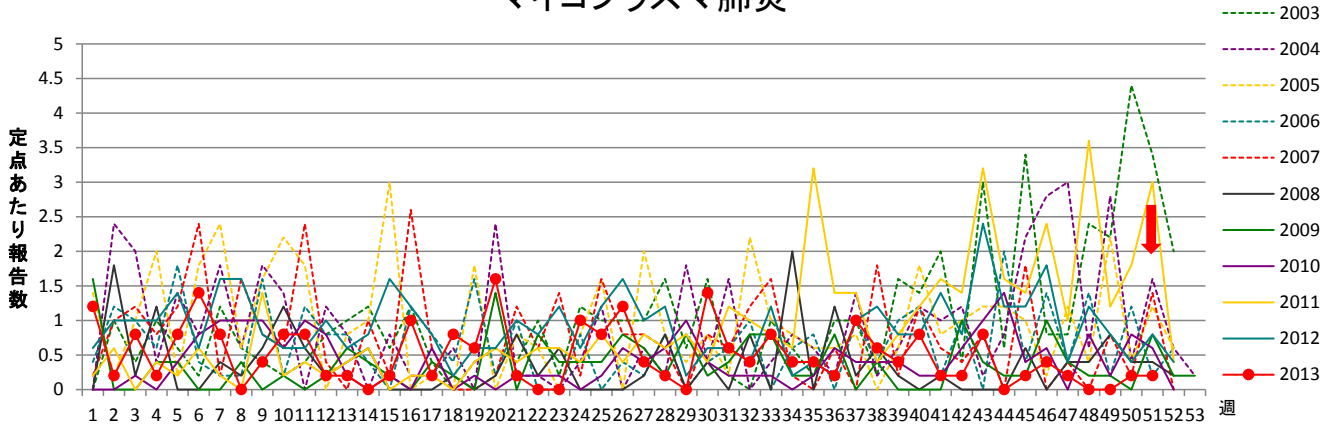
### 細菌性髄膜炎



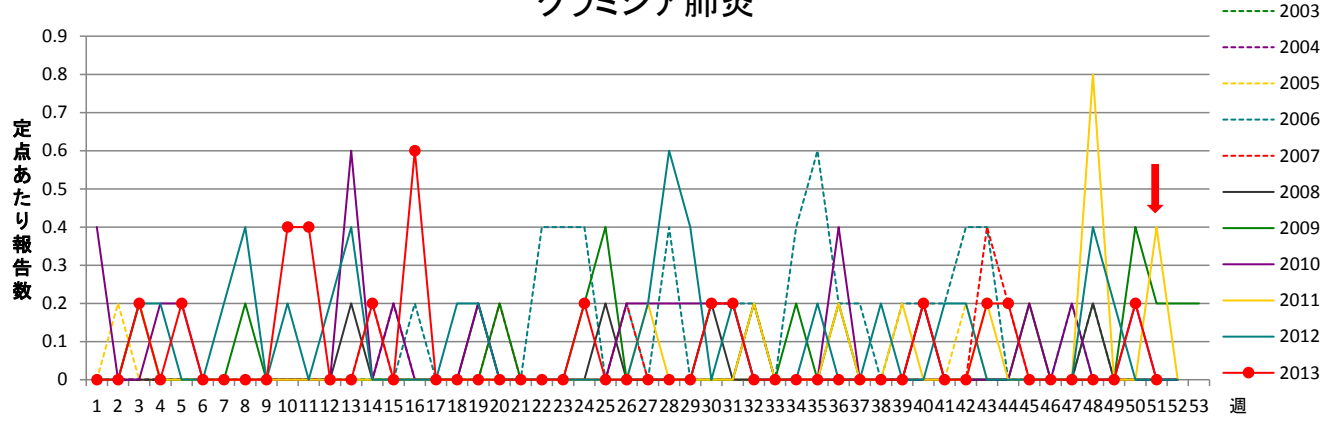
### 無菌性髄膜炎



### マイコプラズマ肺炎



### クラミジア肺炎



### 感染性胃腸炎(ロタウイルス)

